

第31回MQI活動

2026年度 MQI 統一主題

挑戦を確かな実現へ
～未来につなげる病院づくり～

みみより
MQI



発行（公財）練馬総合病院MQI推進委員会
〒176-8530 練馬区旭丘1-24-1
Tel.03-5988-2200（代）

2026年度 MQI活動の開始にあたって
MQI推進委員長 院長 柳川達生

MQI 31年目 - AIとともに始める業務改善元年



MQI活動は、今年で31年目を迎えます。医療の質向上を目指し、これまで多くの職員が日々の業務を見直し、改善を積み重ねてきました。この長年の継続の軌跡こそが、当院の大切な財産です。

TQMには、組織の目標を実現する「方針管理」と、日々の業務を安定して行う「日常管理」という二つの柱があります。そして、その両者を実際に動かす原動力が、MQIをはじめとする職員一人ひとりの改善活動にほかなりません。

今年は、当院にとって「AIによる業務改善元年」となります。まずはMQI活動にAIを取り入れ、業務プロセスの可視化、問題点やボトルネックの抽出、そして改善策の立案を支援するツールとして活用します。大切なのは、AIに判断を委ねるのではなく、人がより深く考え、的確に判断するための「力強い道具」として使いこなすことです。

MQIで得られた知見を院内に広く還元し、職種を問わずすべての職員がAIを適切に活用しながら、自律的に業務を改善できる組織を目指します。30年間培ってきた改善の文化にAIという新たな力を融合させ、より質の高い医療の提供と、より働きやすい職場環境の実現へとつなげていきましょう。

2026年度 MQI 活動年間予定表

3/18～4/10	5/16	6/16	7/21	8/18	10月	10/21	11/9	12/5	2月
（キックオフ 動画配信）	半日で計画を立てる会	チーム別相談会①	チーム別相談会②	チーム別相談会③	発表スライド×切	予演会	報文集用原稿提出期限	発表大会	継続フォローの会

今、この地点です

2026年度 MQI活動キックオフ実施報告

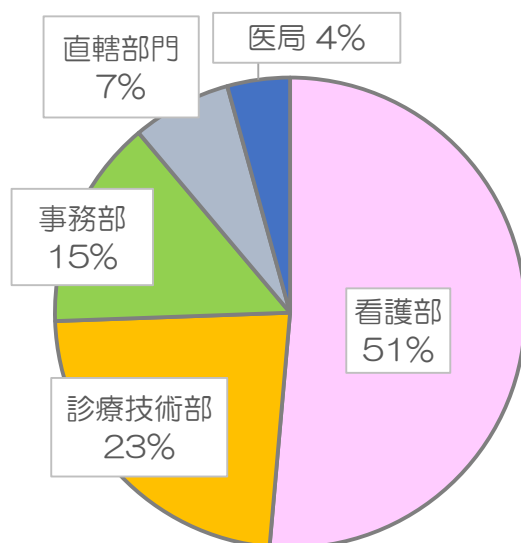
2026年（令和8年）3月18日から4月10日までMQIキックオフの動画をバリテス（CoMedix）で配信しました。その際に実施したアンケート結果を報告します。

MQI活動キックオフ内容

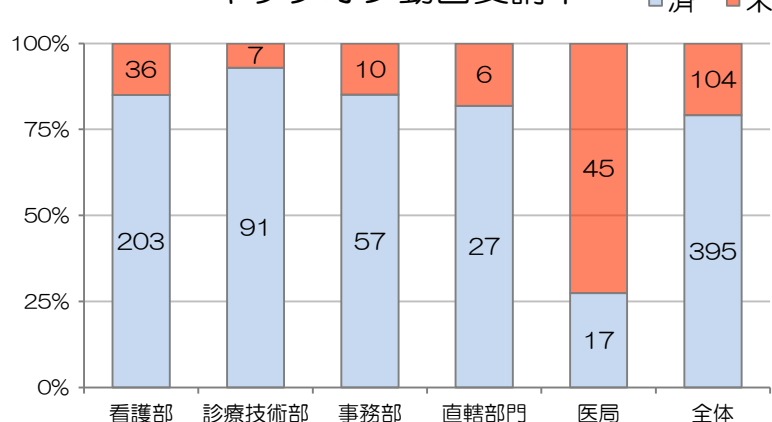
- ①「MQ活動について」 東宏一郎 MQI推進委員 副委員長
- ②「MQIで実現してきたこと」 小吹伸也 MQI推進委員

MQI活動キックオフ開催動画 視聴人数（回答数）：395名

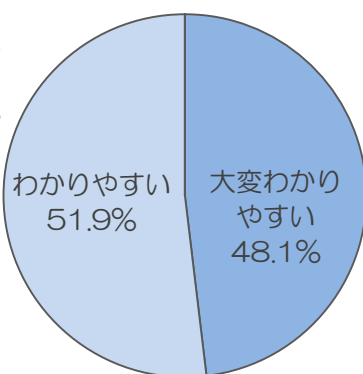
受講者の部門別割合



キックオフ動画受講率



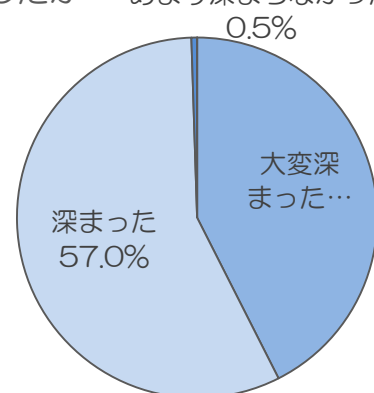
研修の内容は
分かりやすい
ものでしたか



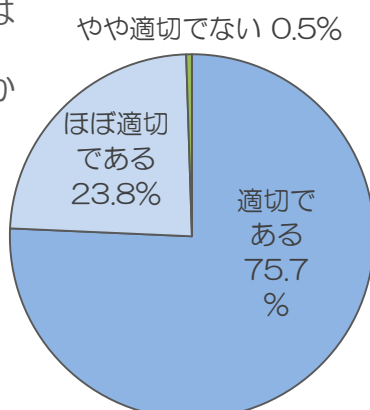
MQI活動について

理解は深まりましたか

あまり深まらなかった

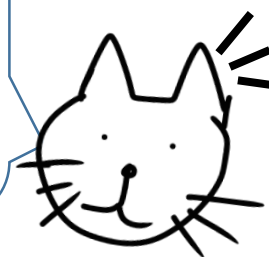


研修の方法は
適切だと
思いましたか



MQI活動で未来につなげる病院づくり♪

キックオフ動画はCoMedixのバリテスから、いつでも視聴が可能です。
格納場所：バリテス > 研修・講義 > MQIキックオフ



皆さまからいただいた たくさんのご意見・ご感想の一部を報告いたします。

今回の自由記述では、「MQIの意義がわかった」「過去の実践が理解しやすかった」「日々の業務改善や患者さんへのメリットにつながっていることが実感できた」という声が多く寄せられました。

MQIの目的や大切さについて

「MQI活動がどのようなものか、どのような目的で行われているのかについて理解することができた」

「新就職者の私にもMQI活動が病院にとって有益であることがわかった」

具体的な事例が理解を助けた

「過去の活動の内容がまとめられていてわかりやすかった」

「今では当たり前に見える各部署の様々な仕組みが、実はMQI活動から始まっているものであると再認識できました」

業務改善と患者への効果を実感

「医療の効率化だけでなく、患者安全にもつながっていることが理解できた」

「自分達が働きやすいように自分たちの行動で環境を変えていくことが大事だと思いました」

「MQI活動を行うことで多職種との連携を積極的に行うことができ、チームとして行動することの重要性を改めて実感できると感じた」

前向きな参加意識につながった

「今後、MQI活動を通して自身が働く環境が良くなるために活動に参加していきたい」

「MQIを推進委員や係の人が進めるだけでなく、職員全体が病院の向上について自分事としてとらえ、改善に取り組んでいく姿勢が重要だと感じた」

今後に向けたご意見

- 音声はやや聞き取りづらい
- スライド資料があるとありがたい
- 動画再生速度が調節できるとよい
- 実際の進め方や現状把握、統計についての説明もあるとよい
- 集合研修で熱量を共有する方法もよいのではないか

その他

「MQIの意義が理解できました。漠然とやらされていた感からやってみよう感に気持ちの動く、分かりやすい説明をありがとうございました。」

など、多くの声をいただきました。

今後も、現状の気づきや皆さまの声を大切にしながら、より参加しやすく、より実りのあるMQI活動につなげていきます。アンケートのご協力ありがとうございました。



2026年度参加チーム紹介

活動テーマ チーム名 主体部署 リーダー	チームリーダーからひとこと
『入院患者の他科診察依頼の仕組みを スムーズにするための見直し』 チーム名：ぐるぐるれんげい 看護部 リーダー：笹間捺綺 	私たちはMQI活動として、入院患者の他科診察依頼業務に着目し、現状調査を実施しました。病棟ごとの依頼件数や依頼漏れの実態を把握するとともに、アンケートを通して現場の課題を分析しました。その結果を基に依頼手順の標準化や情報共有方法の改善を検討し、安全かつ円滑な診療につながる業務改善を目指して活動しています。
『入院が事前に決定している紹介患者 が円滑に入院できる仕組みをつくる』 チーム名：スムージー（Smooth-ie） 入退院支援室 リーダー：伊東美咲 	本活動は、紹介入院患者さんが円滑に入院できる仕組みの構築を目的とし、患者さんの外来滞在時間の短縮と、業務フローの再構築に挑みます。院内の多職種との連携はもちろん、近隣の紹介元施設にも協力を依頼し、入院における患者さんの負担軽減、さらには当院と紹介元双方の負担の軽減を目指します。
『透視室の環境を見直し柔軟な 検査体制を構築する』 チーム名：ラジエーションハウス 放射線科 リーダー：中澤宏哉 	放射線科のMQI活動では、透視室の環境を見直し、混雑時や緊急時でも柔軟に対応できる検査体制の構築を目標とします。健診胃透視の待ち時間や透視室の稼働状況を調査して2部屋を効率的に運用することで、患者様や関係部署の待機時間を削減し、よりスムーズで負担のない検査環境作りを目指します。
『服薬簡素化・減薬による ポリファーマシー対策』 チーム名：おくすりスマート化計画 薬剤科 リーダー：葛千賀子 	今回のMQI活動では、ポリファーマシー（多剤服用により薬剤に関するトラブルが起こりやすい状態）の解消のため、入院を機に患者さんの服薬状況を見直します。具体的には、薬剤の種類や服薬回数を削減し、患者さんが無理なく安全に服薬を継続できる環境を整えます。この活動により、患者さんの薬物治療の質と安全性の向上を目指します。

MQ I 半日で計画を立てる会

2026年（令和8年）5月16日（土）午前

★ 参加の皆さま、お疲れ様でした！ ★

参加者 57名

看護部主体チーム 「ぐるぐるれんけい」



入退院支援室主体チーム 「スムージー（Smooth-ie）」



放射線科主体チーム 「ラジエーションハウス」

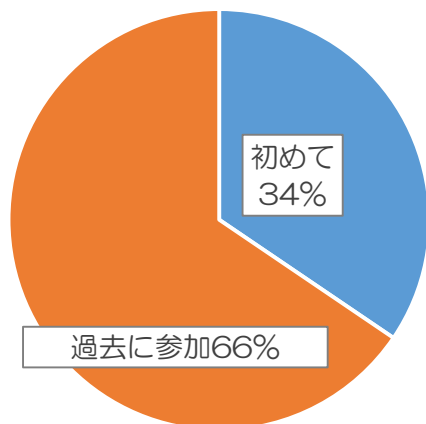


薬剤科主体チーム 「おくすりスマート化計画」

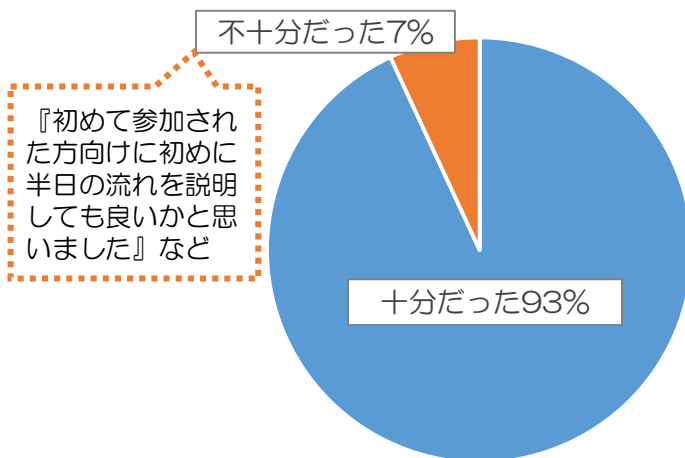


半日で計画を立てる会のアンケート結果 回答：29名

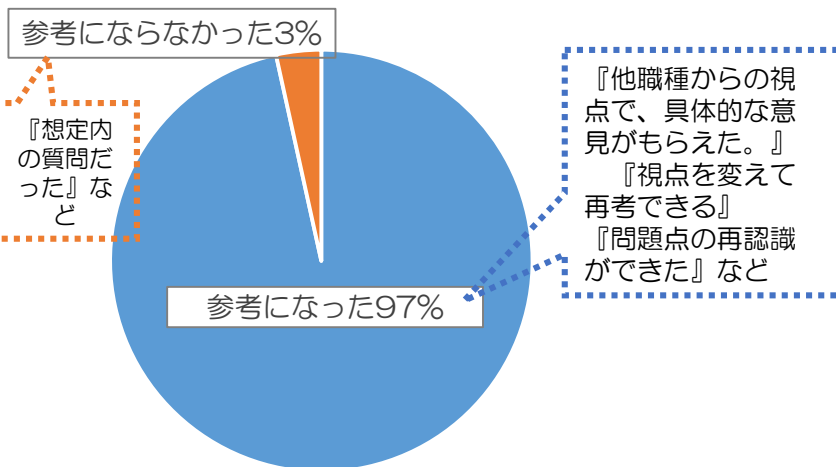
①これまでにMQI半日で計画を立てる会に参加したことがありますか？



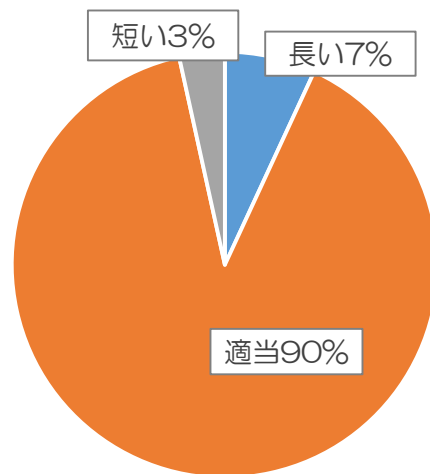
②グループワークに入る前の事前説明に関して



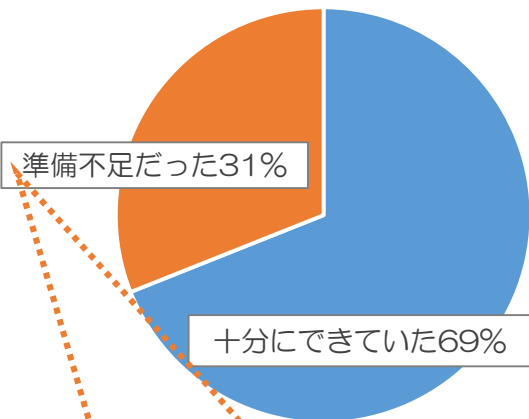
③自チームの発表に対する意見や質問について



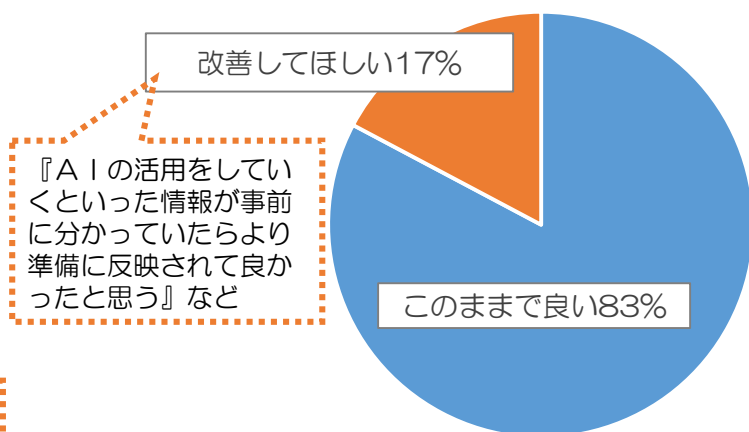
④質疑の時間に関して



⑤自チームの事前準備に関して



⑥来年もこのような会を開催する場合



『スライドが伝えたいことが伝わらなかった』『事前に言葉の定義の確認などチーム内で統一できたらよかった』『そもそも自分たちが何を問題にしているのかわかっていなかった』など

その他、午前中開催でよかったとの意見が多くありました。いただいたご意見は今後の活動に活かしていきたいと思えます。アンケートへのご協力ありがとうございました！

各チームに対する役職者からのコメント（一部抜粋）

チーム：ぐるぐるれんけい（看護部主体チーム）

テーマ：『入院患者の他科診察依頼の仕組みをスムーズにするための見直し』

新しい電子カルテ導入のタイミングの活動で大変かと思いますが、新しいシステムでも引き続き運用できるような仕組み作りができるとよいです。通常の他科診察依頼と緊急度の高いケースの具体的な定義を明確にし、効果・評価が客観的な数字などで評価できるといいと思います。

チーム：スムージー（Smooth-ie）（入退院支援室主体チーム）

テーマ：『入院が事前に決定している紹介患者が円滑に入院できる仕組みをつくる』

目標の「救急ブース占有の8割減」で8割減とした根拠は何かありますか？メンバーにはいませんが、医事課も関わってくる内容かと思いますが。紹介元の医療機関向けに、患者の事前説明の際に活用できるような用紙などがあると協力も得られやすいと考えられます。

チーム：ラジエーションハウス（放射線科主体チーム）

テーマ：『透視室の環境を見直し柔軟な検査体制を構築する』

2部屋を稼働させた際に、人員配置などの問題も出てくると思いますので、そこについても現状把握や対策が必要かと考えられます。胃透視の待ち時間短縮には健診センターとの調整も必要なので、その点も触れられるといいと思います。

チーム：おくすりスマート化計画（薬剤科主体チーム）

テーマ：『服薬簡素化・減薬によるポリファーマシー対策』

目標の「退院後の処方内容の継続」はかかりつけ医や調剤薬局との連携まで想定されているのでしょうか？減薬は収益にも関わるテーマだと思うので、その点も触れられるといいと思います。服薬簡素化の先に、その影響や効果（薬剤を減らしても体に問題がないことや減らしたことにより治療効果向上があることを評価できるといいと思います。

2026年度 MQ I 推進委員会 委員

委員長	柳川 達生	（理事長・院長）
副委員長	東 宏一郎	（副院長・内科医師）
	金内 幸子	（医療マネジメント室）・・・事務局兼任
	渡邊 輝子	（入退院支援室）
事務局	毛利 英美子	（経営企画室）
	☆篠原 智恵	（庶務課）
委員	小谷野 圭子	（質保証室）
	山崎 勝巳	（広報・公益推進室）
	大澤 竜太	（リハビリテーション科）
	北野 和彦	（臨床工学室）
	望月 薫	（医事課）
	赤木 久美	（看護部・2F）
	乾 美奈子	（看護部・外来）
	小宮山 海渡	（臨床検査科）
	小吹 伸也	（リハビリテーション科）
	☆澤田 恒久	（放射線科）
	岩渕 真耶	（放射線科）
	山越 真弓	（質保証室）
	☆中島 みゆき	（薬剤科）
	☆山口 美月	（栄養科）

☆はNEW FACE

